「ほらシ○ンちゃん、体も動けるように
なったことだし、第2ラウンドといこう」

『はっ❤ はっ❤
ちんぽ❤ すきぃ❤
いっぱい❤』

「ハハハ、こうなったらもう
ただのマンコ豚だな
かわいいかわいい」

「あぁ〜いいよぉ
丁寧に丁寧に愛情込めて
しこしこしなさい」

「ふぅ〜これから毎日この
くちマンコ使えるって思うと
たぎるわ」

「あぁぁぁぁぁ射精るっ
吸って吸ってっ
今そのちっちゃいお口にぶちまけて
あげるからねっ」

「そんなものほしそうな顔してっ
いっぱいあげるから
たくさんごっくんするんだよ」

「ほらっ大きく口開けて
全部飲みなさいっ」

「おふ〜っ
きもちいい〜ッ
まだまだあるから安心しなさい」

『まだ飲み足りないのか
ガキのくせになんてエロい顔しやがる』
『まらまら射精う？❤』
フーッ
フーッ
フーッ
フーッ
しゅり
しゅり
しゅり
しゅり
んへっ
んへっ
『当たり前だよシ〇ンちゃん
今度は喉でしごいてもらおうかね』
『フンッ!! フンッ!!
下品なマンコ顔しやがって!!
そんなにちんぽが好きかっ』
じゅぽッ
じゅぽッ
じゅぽッ
じゅぽッ
じゅぽッ
じゅぽッ
ぱじゅっ
ぱじゅっ
ぱじゅっ
ぱじゅっ
『金玉フル回転で
子種つくっとるわ!!』
『もう我慢できねぇ
子宮に子種仕込んでやるから
ケツむけろっ』

それから3時間が
経過した――

パチュッ
パチュッ
パチュッ
パチュッ
パチュッ
パチュッ
ビクッ
ビクッ
オボレてる
ビクッ
ビクッ
んほぉ
あっ
あっ
あっ
あっ
うっ
ついれえ
いっぱい
ついれえ
ついれえ
イグッ
イグッ
もっ
もっ

とっくに薬の効果時間は
切れていたが
快楽の欲求には勝てなかった

あ゛ぁ
あ゛ぁ
すきぃ…
イクっ…
いれへぇらひへぇ
おっ
おっ
とんとんしれっ
すきぃ
すきぃ
びゅってぇ
やにびゅれしれ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
とん
とん
とん
とん
とん
とん
とん
とん
びゅっ
びゅっ

ズパンッ
ビクッ
ビクッ
ズパンッ
ビクッ
ビクッ
ズパンッ
ギチギチ
ギチギチ
ズパンッ
ビクッ
ビクッ
おっ
どぱん♡
あっ
あ
あ
あ
あまた
いまだって
ハッ
ハッ
ハッ
ハッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ぴゅるっ
ぴゅっ
バチュ
バチュ
あんッ
バチュ
ひうッ
バチュ
バチュ
ンッ
んッ
イッ…
ビクッ
あっ
もっ…
おなか…
いっぱい
してっ
おじさん専用の
オナホにしれっ
ろっ
うっ
そしてこの生活が
半年続いた――

『ほらシ〇ン、配信はじまってるよ』
ンフー
ンフー
ちゅ
ちゅ
『みんなごめんね
ちんぽしゃぶるのに夢中みたいだ
このまま交尾垂れ流しておくから
好きにズリネタにでもしてね』